

自己実現への道

第41回 - 第1章 能力の走行距離は無限大に伸びる(その3) -

●断じて行う勇氣に「鬼神もついに退く」・・・現代は、信念をもってあたっていけば、やりがいのある、生命の溢れる時代である。口先で説くのをやめて、実行に着手すればそこから人生がはじまる。太陽が沈み、過ぎ去ろうとする一日を振り返るとき、「すばらしい一日だったなあ」と楽しく回顧できるときには、たいていの場合、自分の努力が実ったのだと認めても良い。予期せぬ良いことが起こったのであり、思いがけずに訪れたこれらの好機に積極的に対応したということなのである。同じような1日を過ごしたのに、がっかりとして落日を迎える人もいる。この二人の間の相違はただひとつ、前者が「今日という日を良い日にした」ということである。難しい任務を課せられたこともあったし、窮地に陥ったこともあった。が、それにも負けず前進したということである。

最初の挑戦で失敗しても、前進し続けよう、2回、3回、4回、5回、6回、そして7回と挑戦を繰り返そう。そうすれば必ず、障害の城壁は崩れ落ちる。「鬼神もついに退く」という有名な言葉がある。我々の人生は、ちょうど力の強い鬼が前に立ち塞がって邪魔をしているようなものだ。しかし、断じて行う勇氣を示せば、鬼はついに退いて道を譲る。人生とはそんなものだ。

●トラブルは幸福が変装した仮の姿だ・・・人間は努力しても苦難に対する免疫性を身につけることはできない。しかし、努力によって苦難に対決する姿勢へと転換することはできる。消極型の人間は悪かったことばかりを採り上げて、恨み辛みを並べ立て、親友や無実の人々に当たり散らす。苦しかったと繰り返し不満を述べ、辛い時代だったとしきりに強調する。また、自分を苦境に陥れた悲惨な歴史を何度も繰り返ししゃべる。しかし、人生の可能性を探究する積極型の人間は、陰気で自己破滅型の考え方を追い散らして寄せ付けない。

「太陽は黒い雲よりも強い。光は闇よりも強い一だから、新しい朝が来れば太陽がまた輝く」積極型の人間はこのように考えて消極的な思いを追い散らす。「どんな暗い環境の中にも、明るさへの転機は潜んでいる」と信じているからである。何かトラブルがあっても、恨み言は言うまい、繰り返し言はやめよう。暗いムードを追い散らして、積極思考へスイッチを切り替えよう。トラブルは実は幸福が変装した仮の姿に過ぎないのだ。

「北国の冬には、曇りや雪の日が何日も続くことがある。しかし、それでも太陽は存在しているのだ。太陽の存在を信じて頑張る人は、早く晴れの運を迎えることができる。しかし、太陽がないとあきらめた人はなかなか運が開けてこないのである。

●我慢強さが事態を改善する・・・私たちはいつマイナス状況に出会って、イヤな思いをするかわからない。拒絶や侮辱にであつたらどのように対応するか？何もかもがうまくいかないように思えるときには、いらだつ心をどのように処理したらよいのだろう？あなたは問題を思い煩ったり、氣力をなくしたりするか、それともじっと耐え忍ぶか？神経過敏な人はくよくよ悩み、傲慢な人は、くじける。しかし、積極思考型の人は問題に耐える。つまり、不快な状況をじっとこらえ、静かに嵐が過ぎ去るのを待つのだ。くだらないことでいらだったり、わずかなことで緊張したりするまい。信念を持って、いやなことを我慢しよう。「人生はなかなかうまくいかないものだからあせってくる。とくに難関に出会ったとき、はたしてうまくいかか心配になってくる。しかし、信念が強まり、体験を積んでくると、艱難に出会っても、どうせ、解決できるものだ、と思うようになってくる。」

<MIKO>

☞ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より